

対談 戦没船員の碑の設計担当者益子義弘さん

神奈川県横須賀市の観音崎に建つ、白い帆のような碑。第二次世界大戦で亡くなった船員を追悼し、平和を誓う「戦没船員の碑」を会場に、本年 5 月 14 日、戦没・殉職船員追悼式が行われた。

追悼式を終え厳かな余韻が残る中、慰霊碑の設計から建立まで携わった東京藝術大学名誉教授の益子義弘氏と田中伸一組合長代行が、戦没船員の碑をテーマに対談を行った。

「戦没船員の碑」とは

先の戦争では、多くの民間船と船員が国に軍事徴用され、海上輸送に従事した 1 万 6 千隻以上の船舶が沈没。少年を含む 6 万人以上の船員が亡くなった。

このような悲劇を背景に、戦没船員を慰霊するための慰霊碑を建立する運動がはじまり、建立会から「戦没船員の碑」の製作を依頼された、東京藝術大学建築科教授・吉村順三と彫刻科教授・菊池一雄によって計画が進められ、吉村氏の指示のもと、初期構想から実施まで一貫して設計を担当したのが、当時、東京藝術大学建築科助手であった益子義弘氏である。

対談の内容

戦火のない海洋永遠の平和を祈念し、後世に伝えるシンボルとして建立されたこの碑には、さまざまな想いが詰まっている。

益子義弘氏には、建立会の方々とのやりとりや設計過程、碑への思いなどを、田中伸一組合長代行には、先人たちから受け継いだ船員としての想いを未来へ継承していく決意などを、それぞれお話しいただいた。

対談映像は、本部会館の図書資料室・展示室で年内（予定）に公開する予定。また、この対談の詳細は、海員 8 月号で掲載予定。

「海員だより」